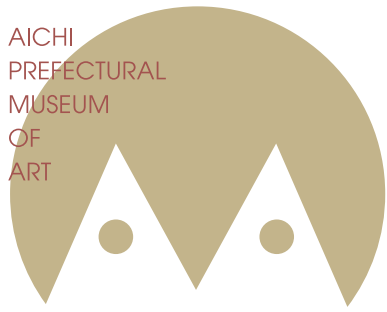


AICHI
PREFECTURAL
MUSEUM
OF
ART



MEMBERSHIP

愛知県美術館友の会・会報 第35号

空中回廊

この展覧会で日本人の感性を喚起[美しき日本の自然展] / 会員のひろば / 愛知の芸術家たち / 愛知県美術館コレクションから [ポール・ゴーギャン《木靴職人》《海岸の岩》] / 友の会活動紹介



ポール・ゴーギャン《木靴職人》1888年

この展覧会で日本人の感性を喚起

美しき日本の自然

愛知県美術館・愛知県陶磁資料館コレクション企画

2012年9月28日(金) から 11月25日(日) まで開催

われわれ日本人には、自然とともに暮らすということがひとつの思想としてありました。しかし西洋文明の流入により「対立するもの」「操作するもの」として自然を考えるようになり、共生の感覚が薄れていきました。日本人と自然との関係が希薄になりつつある中で相次いで起こった大きな災害は、「自然は怖い」と意識させてしまったのではないのでしょうか？

これまでも自然災害は繰り返されてきましたが、昔の人たちは自然の脅威を受けとめつつ、共生するものとして生きていました。古来、培われてきた日本人の自然観を見直せば、大切な何かを得ることができると思います。

秋草(あきくさ)の美学

源豊宗氏は『日本美術における秋草の表現 - 日本美術の様式的性格 - 』の中で「日本の美術は常に季節的取材をとりあつかっているのであるが、その季節の中でも、特に秋が最も多い。」と述べています。

万葉集では、萩やすすきなどの秋の草によって呼び起こされた心情が、「秋草」の歌として多く詠まれています。西洋の、自然をそのままにとらえる写実とは異なり、日本人は自然によって引き出された感情を表現します。これは、



《色絵草紙文皿》有田・鍋島藩窯様式
江戸時代(17~18世紀)愛知県陶磁資料館

も通じていく感性といえます。

「秋草の美学」というテーマに沿った絵画や様々な意匠の作品を通して、日本人の持つ情趣性や自然観を感じていただける

ことでしょう。

胸中山水(きょうちゅうさんすい)

山水画における日本的な美の側面にも焦点を当てたいと思います。中国文化の日本への影響は大きなものがありましたが、日本と中国では自然との関係が違っていました。

中国では、自然の風景を描く場合は理想郷として表現する傾向があり、現実の自然に対して共感をもっているわけではありません。あくまでイメージの中の自然であり、日本の自然観とは異なっています。日本の文人画、南画と呼ばれることもあります。中国の文人画に憧れて描かれています。しかし、中国の「写し」であっても、それは日本人が描いたものであり、そこには日本独自の自然観がみえてきます。

文人画家、中林竹洞の山水画をはじめ、山水図様が描かれた陶磁器などを紹介します。中国の画とは趣の異なった日本人による山水の風景をご鑑賞ください。



中林竹洞《梅花書屋図》天保4年(1833年)
愛知県美術館(木村定三コレクション)

..... 美しき日本の自然

ここでは、時代の枠にとらわれず、自然に共感や親しみをもって制作された作品を展示します。この章では、近代以降の作家、たとえば萬鉄五郎、東山魁夷らのように西洋思想に触れながらも、日本人独特の感性で制作をしていた画家も取り上げます。様々な時代の作品に接することで、日本人がもっていた自然への感覚を感じとりやすくなるのではないのでしょうか。



《色絵雲錦手片口鉢鉢》犬山
江戸時代後期(19世紀) 愛知県陶磁資料館

本展では、美術や工芸の分野で自然がどのように表現され、図様化されてきたかを紹介することで、日本人の中に本来あるはずの「自然と



萬鉄五郎《紅葉風景》1926年 愛知県美術館

ともに生きる」という感覚を呼び覚ますことができればと思います。

普段のコレクション展では当館の作品のみですが、今回は愛知県陶磁資料館のご協力を得て、いつもとはひと味違う展示になると思います。

(中塚千佳)

この記事は本展覧会担当の平井学芸員へのインタビューを参考に構成しました。

次回展覧会

12月21日(金)～2013年2月11日(月・祝)

生誕150年記念 クリムト 黄金の騎士をめぐる物語

愛知県美術館が開館10周年を迎えようとしたとき、クリムト展を企画する話が出ましたが、極めて難しいという判断から実現には至りませんでした。20周年に向けて再度企画されたのが今回の展覧会です。ところが、あいにく2012年はクリムト生誕150周年にあたり、当館の作品を含め世界中のクリムトの作品が生地ウィーンに集まりました。もともと個展をすること自体が難しいうえに、そのような年に日本でクリムト展をすることは現実的に不可能です。そこで、1903年に描かれた当館の《人生は戦いなり(黄金の騎士)》を核に展覧会を構成することにしました。クリムトが深く関わったウィーン分離派(1898年創設)やウィーン工房(1903年創設)に関連する作品を取り入れつつ、クリムトの作品展開もある程度たどれるような構成になります。いつもは単独で展示されている孤高の騎士が、異なったコンテクストの中で展示されるとどのように見えるか、今から楽しみです。(企画業務課長 古田浩俊)



グスタフ・クリムト《人生は戦いなり(黄金の騎士)》1903年

会員のひろば

バス旅行 懇親・他館鑑賞会

友の会特別鑑賞会 / 友の会講座

バス旅行 懇親・他館鑑賞会（佐川美術館・滋賀県立近代美術館）

4月15日、友の会の懇親イベントである日帰りバスツアーが開催されました。おとしから始まったこの企画は好評で、今春、おかげさまで3度目の開催に至ったものです。

今回の行き先は、滋賀県の佐川美術館と滋賀県立近代美術館。どちらも鉄道の駅からは遠く、行きにくい美術館です。参加者は前回と同数の58人の友の会会員に加え、今回は特別ゲストとして村田館長にもご参加をお願いしました。

佐川美術館に到着後は、バス車内でスタッフの方から美術館の紹介など、簡単な説明をしていただいたあと入場。自由観覧で、企画展の「彫刻家 佐藤忠良展」のほか、3つの棟それぞれにテーマをもって展示されている所蔵品展を鑑賞しました。



佐川美術館 佐藤忠良の作品前にて



石山寺門前のレストランで昼食をとってから、滋賀県立近代美術館に到着。レクチャールームで「日本絵画 組み合わせの美」展について担当の高梨学芸課長に解説していただきました。この企画展は、襖絵や屏風など、2点以上で一組として鑑賞されることが多い日本絵画にスポットをあてたものです。レクチャー後は自由観覧...の予定だったのですが、



滋賀県立近代美術館の高梨美術課長から解説を聞く



村田館長の解説に聞き入る

やはり我らが人気者の村田館長。会員の何人かは館長に「ぶら下がり」状態で、ガイドツアーになっていました。

ゲストの村田館長には往復のバス車内でも、会員の素朴な疑問にお答えいただく「Q & A」コーナー（しかも、休憩で停車するたびに号車を乗り換えるハードワーク）までこなしていただき、ありがとうございました。

ツアーでは、会員どうし、新しい友達を増やしていただきたいとの考えもあり、座席は指定。行きの車内では自己紹介をしました。皆さん最後にはお隣どうしすっかり打ち解けあい、満足げにバスを降りて家路につかれました。

友の会の「恒例行事」になりつつあるこの企画。次はどの美術館に行きたい、などご意見・ご要望がありましたら、事務局までどしどしお寄せ下さい。
(森 健次)

特別鑑賞会「魔術／美術」展にて

「魔術／美術」展の特別鑑賞会が4月19日に開催され、企画を担当された中村学芸員から今回の展覧会のねらいや工夫についてお話を伺うことができました。

「魔術」をキーワードに愛知・岐阜・三重の美術館の所蔵作品からテーマに合ったものを選び出し、展示方法にも工夫を凝らされたそうです。

会場入口には「魔女」への変身コーナーが設けられ、そのコスチュームを目にすると更に鑑賞への期待が高まります。いざ会場内に入るとマジックに使われる「箱」から飛び出したように様々な作品が並び、ジャンルも絵画・版画・



不思議な展示に魅了される

写真等と多岐にわたっています。そして、どの作品も「あらっ」と思わせるような不思議な要素を持っていて、鑑賞者を退屈させません。

展示作品を使った可愛いポスターを目にしてから展覧会を楽しみにしていた私ですが、不思議な作品に魅せられ、暫し現実を忘れた鑑賞会でした。（高橋文枝）



高橋副館長と一緒にコスプレ



写真のもつ魔術性を解説する中村学芸員

友の会講座『エルンスト展をマックスに愉しむために』愛知県美術館 副田一穂学芸員

7月22日、開催中の「マックス・エルンスト」展を最大限に愉しむためのポイントを、副田一穂学芸員が詳しく解説してくださいました。



解説する副田学芸員

様々なカタチのキャラクターの解説がありました。

これらはフィギュア（形・象徴・外観など）とそれを支えるスケープ（風景・景色・物語など）が入り混じったエルンストの作品を観るうえで、

エルンストの生涯と作品に影響を及ぼした出来事、技のデパートといわれるエルンストの技法の詳しい解説、作品に登場する

大切な要素です。また、歴史上の様々なエピソードが、自らにまつわる物語として消化され、作品に織り込まれています。それらを丹念に読みとることは、有意義な時間を生むことでしょう。

講座の最後にエルンストの「自分を見つけるとき、画家はだめになっている」という言葉を紹介していただきました。作品を目の前にしたときの印象とそこから好きなように夢想する自由も、鑑賞者には与えられていることを知り、ほっとしました。（松下智子）



副田学芸員による鑑賞ガイドのイラスト

愛知県美術館の歩み始め 太田三郎

『空中回廊』の編集スタッフから「愛知の芸術家」についての原稿を頼まれた。私は半世紀強、マスコミ一筋だったが、地元を離れたblankもあり、接した地元の美術家はとびとびである。だが美術ファンとして、美術館や友の会への愛着は変わらない。以前、会報に「私と美術・美術館」を書いたので、今回は県美の前身、愛知県文化会館美術館の館長や友の会とのことなど、半世紀前の記憶を思い出しながら駄文を...

今年は愛知県美術館が誕生して20年の記念の年。はやふた昔前になるとは。だが私には、旧館オープンがつい先日のことのように思われる。それは1955年2月で、通算すればすでに57年になる。公立の美術館としては神奈川県立近代美術館に次いで戦後2番目の開館で、周囲の期待は大きかった。

「友の会」の発足も同年で、会報名は『窓口』。命名は初代館長(美術科長)の太田三郎さんである。「館が多くの方と率直な接触を保ちつつ、より親しみのあるものにしたい。」との願いからとうかがった。

太田さんは1884年、地元西春日井郡西枇杷



太田三郎《三嬌図》1929年



太田三郎《婦人像》1915年頃

島町(現・清須市)の出身である。黒田清輝に師事した文展系の洋画家であり、主に中央で活躍された。川端康成の『浅草紅団』の挿絵も担当されていた。その後「地方文化の自主性と自立のために役立ちたい」と地元に戻られ、美術に理解の深かった当時の桑原幹根知事のもとで、館長として尽力されることになったのである。

その後、温和人柄から美術家の組織である中部日本美術協会の委員長に推され、協会の中心人物となられた。他にも俳句をたしなまれ、現代俳句協会の会員でもあった。旧館2階の館長室で何度かお会いした際には「君もどう...」と誘われた。丸顔できさく、語り口もやさしく、ひろく慕われていた往時が偲ばれる。

1960年まで勤められ、その後、東京の息子さんのもとへ行かれたが、1969年に逝去された。

県美と友の会の創成期を築かれた恩人ともいえ、感謝に堪えない。1929年「帝展」に出品された《三嬌図》や2008年の「誌上のコートピア展」に展示された《婦人像》など、県美の所蔵作品も多い。

(荻野 孝)

愛知県美術館コレクションから 深く知ると、もっとみえてくる

ポール・ゴーギャン《木靴職人》《海岸の岩》

(編)ここでご紹介する所蔵作品《木靴職人》を、本会報表紙に掲載しました。

5月某日の夜9時、その作品は愛知県美術館にやってきました。スイスからの長い旅の末に当館に到着したのは、ポスト印象主義の画家として日本でも絶大な人気を誇るポール・ゴーギャンの作品。以後さまざまな手続きを踏み、マスコミを通して華々しく紹介され、今収蔵庫でお披露目されるのを待っています。

公開に先立ち、この新収蔵作品を紹介します。作品はゴーギャンがまだタヒチに渡る前、そしてゴッホとアルルで共同生活を送る直前の1888年の夏、ブルターニュ地方のポン＝タヴェンに滞在した時に制作されました。カンヴァスの両面に絵が描かれ、それぞれ《海岸の岩》(図)、《木靴職人》(表紙)というタイトルがつけられています。当時画材の調達に苦労するような経済状態に陥っていたゴーギャンは、このようにカンヴァスの両面を用いたのでした。



《海岸の岩》1888年

ブルターニュ地方独特の岩場の多い海岸を描いた《海岸の岩》では、波の動きなどが印象派風の素早い筆致で表現されています。画面左下には、サインと制作年とともに「友人モレへ」と献辞が記されています。作品が贈られた人物は、1888年の夏からポン＝タヴェン派のグループに

加わったアンリ・モレというゴーギャンの画家仲間でした。

もう一面に描かれているのは木靴職人です。木靴はゴーギャンにとってブルターニュを象徴する重要なモチーフですが、主題である木靴職人は左端に寄せられ、身体の一部がカンヴァスの端で断ち切られたような不安定な構図を示しています。木靴職人の代わりに画面中央に出現した木の幹によって、作品は実際の職人の仕事場を描写することから離れ、さらにミステリアスな画面になっています。この木の幹は画面を装飾的に構成する役割を担い、ゴーギャンがこの作品を制作した年に確立した、2次元的な画面構成を行う総合主義様式を特徴づけるものです。

カンヴァスの両面の作品は、ほぼ同じ時期に描かれたにもかかわらず、表現スタイルはずいぶん異なります。この両面の絵画を通して、ゴーギャンが印象派の手法から脱却し、総合主義様式を確立する直前までの変遷を辿ることができ、そのためきわめて希少価値の高い作品と考えられます。

ある県民のご寄附によって実現したこの貴重な作品の収蔵は、美術館を応援してくださる方々の信頼の証であり、今年開館20周年を迎える愛知県美術館にとって大きな励みとなりました。20世紀美術を主に収集してきた当館に、このゴーギャンの作品が仲間入りしたことで、コレクション展がどのように変わるのか、初公開にご期待ください。(学芸員 森 美樹)

学芸員の横顔

森 美樹(もり・みき)

愛知県美術館学芸員。

「ロートレック展」(2007-08年)、「テーマ展 松藤孝一」(2008年)、「APMoA Project, ARCH 吉本直子」(2012年)などを担当。





AICHI
PREFECTURAL
MUSEUM
OF
ART

MEMBERSHIP

美術館から

愛知県美術館はこれまでに様々な企画展とコレクション展を開催してきましたが、開館20周年を迎える今年、新しく「APMoA Project, ARCH」というプロジェクトをスタートさせました。このプロジェクトは、作家と学芸員との協同によって作る展覧会で、学芸員が注目する作家を選んでご紹介するものです。企画展の開催時期に合わせ、コレクション展の一部屋を中心に作品を展示します。初めてとなる今年は、5名の作家の作品を展示します。吉本直子さんの白いシャツの作品、荒木由香里さんの日用品を使った作品の展示はすでに開催して多くの方にご覧いただきましたが、これから西岳拓貴さん、奥村雄樹さん、佐藤香菜さんの作品を次々と展示していきます。

「ARCH(アーチ)」という名前には、このプロジェクトが作家の活動を支え、そしてそれを作家、美術館、そして鑑賞者である皆さんとの架け橋にしていきたい、という思いが込められています。ここで展示をした作家が、将来、国際的な大きな展覧会で活躍されることもあるかもしれません。APMoAプロジェクト・アーチは、それぞれの作家の今後の活動も楽しみになる展覧会です。これからの展示にぜひご期待ください。

(学芸員 塩津青夏)

友の会活動紹介

期間 2012年4月-8月

中面で紹介

「魔術/美術」展

4月 バス旅行 懇親・他館鑑賞会
(佐川美術館・滋賀県立近代美術館)



懇親と他館鑑賞が目的のバス旅行。同行された村田館長の解説により、佐川美術館では佐藤忠良の気品に満ちた作品に、滋賀県立近代美術館では小倉遊亀や志村ふくみなどの作品に感銘を受けました。(M.Y.)

5月 特別鑑賞会(昼・夜)
6月 総会

「マックス・エルンスト」展

7月 特別鑑賞会(昼・夜)



エルンスト展の特別鑑賞会にはたくさんの方が参加されました。よく見るほどに不思議さが増し、エルンストの多彩な魅力に驚きました。また足を運んでじっくりと鑑賞したいと思いました。(大矢真美代)

7月 講座(副田学芸員)
「エルンスト展をマックスに愉しむために」

定例活動

美術館モニター 2回
所蔵作品管理 のべ12回
木村コレクション...ボジの名札・台帳作成、キャプションの整理
備品...座布団・防災頭巾・木村定三コレクション風呂敷の補修など
発送 のべ3回 受付 のべ4回
会報発行 第35号発行 ホームページ 随時更新

これからの企画展のご案内

美しき日本の自然 愛知県美術館・愛知県陶磁資料館コレクション企画

9月28日(金) 11月25日(日)

生誕150年記念 クリムト 黄金の騎士をめぐる物語

12月21日(金) 2013年2月11日(月・祝)

応挙

2013年3月1日(金) 4月14日(日)

友の会入会のご案内

友の会の詳しい活動内容を知りたい方、入会をご希望の方は、下記までお問合せ下さい。

10階愛知県美術館受付

友の会事務局(火・木・金・土 10:00-16:00)

052-971-5511(代) 内線347

tomonokai@aac.pref.aichi.jp

編集後記
懇親イベントの日帰りバス旅行に初参加。皆さんがお土産選びを楽しむ間に、念願の石山寺の参詣を決行し、ストーンパワーを戴いてきました。担当理事さんに感謝。次回もこんなおまげがあるかしら?今から楽しみです。(平松)

□編集 小林克敏/中塚千佳/水野愛子/大矢真美代/喜田泉
高橋文枝/平松章子/松下智子/宮崎玲子/森健次
□協力 愛知県美術館
□発行 2012年9月
愛知県美術館友の会
〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目13-2
愛知芸術文化センター内
TEL: 052-971-5511(代)内線347
FAX: 052-971-5617
E-mail: tomonokai@aac.pref.aichi.jp
美術館ウェブサイト: http://www-art.aac.pref.aichi.jp